



自然が崩れてしまうと、人間の体も崩れてしまう。
私たちは自然に生かされているのです。

プロフィール

1960年 ドイツ・ボーホム市生まれ。ボーホム・テクニカル・カレッジ卒業(機械工学専攻)。Keiper Recaro GmbHに入社後、89年に、日本の部品メーカーとの技術交流プログラムのため来日。以後、92年カイパー・レカロ株式会社(現・「レカロ株式会社(東近江市)」)入社、今年6月よりレカロ株式会社 代表取締役社長に就任。趣味は、歴史や日本の文化、日曜大工、ドライブ、ツーリング。この春から、築120年の古い民家を改築し能登川町に住んでいる。

日本は、ドイツで一般的に浸透している環境保護の感覚から、随分遅れているように感じるのですが、ドイツがそれだけ環境に対してのこだわり、熱心に取り組むようになったのには何かきっかけがあったのでしょうか？

個人的なイメージですが、第1次オイルショックで、「地球の資源は永遠ではない」とみんな目が覚めたのではないかと思います。また、ドイツの誇り、「森」が80年代に入って半分死んだというショッキングなニュースがありました。その結果ドイツの国民は、週末家族を連れて散歩する場所が消えてしまう、死んでしまうと感じて、やはり地球を守るべきだと、強い運動になったのだと思います。

最後に滋賀県の方々にメッセージをお願いします。

「自分の健康を守りながら、滋賀県の自然、日本の自然を守って欲しい。」と言っても難しいので、まずは環境にやさしい生活をしてほしいです。

小さなことですが、例えばスーパーマーケットで、ビニールなどレジ袋は、ドイツでは本当にないですからね。高く買わなきゃならない。だから私は、いつも布でつくった袋で買い物を買います。

自然が崩れてしまうと、人間の体も崩れてしまう。子どももきれいに育てられない。病気になったら仕事もできない。全部バラバラになってくる。私たちは自然に生かされているのです。



レカロ株式会社

本社所在地
東近江市柴原南町 1570-1
ホームページ
<http://www.recaro.jp/index.html>

ドイツに本社を置くカーシートメーカー。ボルシェのカーシート生産をスタートに、今やグループ全体で14生産拠点、6営業拠点、7ライセンス生産工場を展開する世界トップクラスのシートメーカー。カーシートだけでなく、航空機用シート、日本では新幹線の運転席用シートもレカロ社のものが使われている。

人間工学に裏付けられたレカロのカーシートは、長時間の運転でも疲れ知らずとして知られ、腰痛の予防にも役立つ事で定評がある。

日本に最初にいらっしまったのは？また、そのきっかけをお話いただけますか？

はじめて日本に来たのは、1989年の夏、7月17日でした。そのときすでにエンジニアとしてドイツの会社「カイパー・レカロ」で働いていましたが、技術提携先の日本の会社へ行くチャンスがあり、自ら志願して行かせてもらいました。

最初は、愛知県に2年間住んでいました。トヨタ系列の大きな部品メーカーで1年間勉強し、その後「カイパー・レカロ」とその会社との技術交流プログラムを日本側で1年間担当していました。

滋賀県にいらっしまったのは、いつ頃ですか？

滋賀は93年からまず2年間、近江八幡に住んでいました。その後、滋賀を離れて横浜に住み、次に広島に引っ越しして、それで結局2001年に八日市に戻りました。

そして、今自分の家を買って能登川に住んでいます。古い民家を買って、それを修理して楽しく暮らしています。

やはり古民家には、古いもののよさが残っていますか？

残っています。私はもともと古い物好きです。特に滋賀県には、まだ古い家が十分残っていますから、守って欲しい。つぶすのは誰でもできます。工場出しの家は誰でも買えますが、私個人としては、その新しい家は日本の顔ではなく、新興住宅地や団地にいくと、リトルイタリア、リトルスペイン、リトルアメリカみたいになっています。日本人が住んでいるのに、そこは日本じゃないみたいです。

家は文化財です。自分の歴史の一部、自分の心の一部、それを捨てるんですから。そういうわけでもっと古いものを守りたい。

こちらでは、150人の従業員のうち5人だけがドイツ人だそうですが、大多数の日本人従業員とお仕事をされるなかで、コミュニケーションをとる上で気を配られているところ、難しいと感じられるところはありますか？

特に、コミュニケーションでは問題を感じていません。確かに、私は伝えたいことは100%口頭で言いますが、一般的に日本人はすべてのことを口に出して言わないところがあります。

しかし、それでは日本人同士でも誤解を生じさせてしまいます。ですから、この会社では重要な仕事を予定通りすすめるため、日本のこうした文化は少し置いておいて、技術的に論理的にみんなで話し合うようにしています。

また、私は社長に就任したばかりなので、月に一度は私から従業員へのメッセージを出したいと考えています。そして、現場を回る。やはり現場とのコミュニケーションが消えてしまったら、会社全体の状態がはつきりわかりません。これは、日本の一般的な会社のやり方だと思うので、こうした日本の文化の一部を取り入れるつもりです。このように、ドイツのやり方と日本のやり方のいいところだけを取り入れていくことで、この会社は育つと考えています。

アジアの拠点として八日市市(現東近江市)にベースを置かれたのは、なぜですか？

自動車部品を作っていますから、当時取引をはじめたダイハツ、トヨタ、三菱などが、八日市から近くて非常にアクセスしやすかったためです。また当時から、八日市に立派な工業団地があったので、ここに入ることになりました。

「レカロ」といえば、スポーツシートというイメージがあるのですが？

そうですね。残念なことに、ほとんどのお客様がレカロはスポーツシートのメーカーだと思われています。しかし、人間工学的に考えて、疲れずに運転できるように作られたものなので、仕事で長時間クルマを運転する人や週末にロングドライブを楽しむ人々にこそ、レカロシートを使って頂きたいと考えています。レカロは、バスやトラック、またロングドライブの機会がある全てのドライバーが、自分の健康を守りながら安心して運転できるような物づくりをする義務を果たせるように努力しています。

また、我々はもともと車のシートメーカーです。もう何十年ものノウハウがあるんです。レーシングシートでのノウハウをいかして、今ではチャイルドシートやオフィスチェア等も開発しています。

しかし実際に、お客様にシートの良さを説明し、理解してもらうのはなかなか難しいですね。自分の健康についてそこまで考える人はまだ少ないようです。特に、まだ体が十分元気な若い人。でも、そのころから健康を守ろうと心がけられたら、もっと長く元気に何でもできます。そのためにも、自分の体に合ったものを使ってもらいたいです。